

26) 麻酔科

1. 診療体制と患者構成

1) 診療科スタッフ（講師以上）

萬 知子（教授、診療科長）

山田 達也（臨床教授）

徳嶺 譲芳（准教授）

森山 潔（准教授）

窪田 靖志（講師）

森山 久美（学内講師）

2) 常勤医師数、非常勤医師数

常勤医師数 助教以上19名、医員 4名、レジデント 4名。非常勤医師：3名

3) 指導医数、専門医・認定施設（学会名）

日本麻酔科学会：指導医 6名、専門医14名、認定医 3名

日本集中治療学会専門医 4名

日本緩和医療学会暫定指導医 1名

4) 外来診療の実績

〈専門外来〉

周術期管理外来（月～金、第一土曜）

術前リスク外来（月～金）

緩和ケア外来（月～金）

高気圧酸素療法外来（月～金）

周術期管理外来では、手術安全の向上を目的に、術前リスク評価、麻酔説明を行っている。予定手術を受ける患者全例を対象としている。また、従来より行われていた麻酔ハイリスクのコンサルト目的の外来も継続している。平成27年度は予定手術を受ける患者の95%以上が麻酔科外来を受診した。周術期管理外来及び術前コンサルト外来により、手術室の安全や効果的な運営に寄与した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予定手術数（例）	454	384	508	517	498	423	499	443	475	500	511	564
外来受診者（人） （周術期+リスク） 再診患者を含む	455	403	526	563	513	445	534	466	469	550	517	547
受診率（%）	100	105	104	109	103	105	107	105	99	110	101	97

予定手術症例に対する、麻酔科外来（周術期、リスク）受診状況（H27.4月～H28.3月）

5) 入院診療の実績

＜麻酔管理実績＞

小児開心術を除く、すべての科の手術に対して、麻酔管理を行っている。中央手術室外では、放射線治療室において小線源治療（4例）、ハイブリッド手術室において血管ステント術（40例）を施行した。

平成27年度（2015年度）の中央手術室における麻酔管理症例数は6,730例であった。麻酔科管理症例は、前年比1.6%増であった。

【中央手術室における麻酔科管理症例の年次推移（表）】

年次	2010	2011	2012	2013	2014	2015
全身麻酔（件）	5,588	5,905	5,919	5,986	5,908	6,008
脊髄くも膜下麻酔 または硬膜外麻酔	851	826	788	828	717	722
合計（件）	6,439	6,731	6,707	6,814	6,625	6,730

＜集中治療管理＞

別項参照

＜緩和ケアチーム＞

他の診療科の入院患者について疼痛治療の診療依頼があった場合、その診療科と併診をしている。がんによる疼痛で入院を必要とする患者は、緩和ケアチームが担当診療科と併診している。緩和ケアチームの身体症状を診る専従医1名と専任医は麻酔科が担当している。緩和ケアにより疼痛を始めとする初症状の速やかな軽減が得られ早期退院、転院、安らかな看取りに結びついている。

緩和ケア外来、緩和ケアチームに関しては、別項参照

2. 先進的医療への取り組み

原発性重症肺高血圧症患者の全身麻酔および区域麻酔を数例、末梢神経ブロックによる麻酔管理を多症例施行した。

3. 低侵襲医療の施行項目と施行例数

全身麻酔の危険性が高い患者（原発性肺高血圧症合併患者、重症糖尿病壊疽の下肢切断など）に対しての末梢神経ブロックによる低侵襲麻酔を施行した。

4. 地域への貢献（講演会、講義、患者相談会など）

多摩麻酔懇話会 常設事務局、三多摩緩和ケア研究会 常設事務局

5. 医療の質の自己評価

多数の麻酔管理を安全に実施できた。

周術期管理外来の充実により、術前管理を向上させ、手術室の安全で質の高い麻酔を提供する事に貢献した。

緩和医療を院内および地域内で普及発展させることができた。

集中治療室（CICU、SICU、SHCU、HCU）の管理運営に貢献した。

高気圧酸素治療室の管理運営に貢献した。